

## 第6回公共施設の整備に関する検討委員会会議録

1. 日 時 平成26年12月17日（火）午後1時30分～午後3時30分
2. 場 所 市役所第3庁舎会議室
3. 出席者 （委員）花井委員長、原副委員長、小松委員、船橋委員、出口委員、諏訪村委員、杉山委員、須藤委員、中田委員、田中委員、内藤委員 以上11名  
（市側）経営企画部次長、同施設企画室長

### 4. 会議内容

#### （1）開会

（事務局）

定刻となりましたので、ただいまより第6回公共施設の整備に関する検討委員会を開催いたします。なお本日藤間委員は欠席となっております。また委員は遅れて出席する旨のご連絡いただいております。開会にあたりまして、委員長より挨拶をいただきたいと思っております。

（花井委員長）

こんにちは。長野の雪の中から参りました。熱海は天気もいいし良いなと思っています。こういうところでまたみなさんと議論できるのを楽しみにしています。今日はホールが中心ですが、みなさんと見学に行きましたし、いろいろなアイデアを出していただきながら進めてまいりたいと思っております。宜しくお願い致します。

（事務局）

ありがとうございました。それでは前回に引き続きまして、（仮称）熱海フォーラム整備事業基本計画（案）について検討をお願いいたします。委員長宜しく申し上げます。

#### （2）（仮称）熱海フォーラム整備事業基本計画（案）について

（花井委員長）

それでは議論に入りたいと思っております。今も申し上げましたが、ホールと展示とギャラリーについて皆さんからご意見をいただきたいと思っております。前回もお願いしましたが、みなさんのお手元に「第6回の整備に関する検討委員会資料」があります。3つのコンセプトについての言葉が書かれていると思っておりますが、この3つのコンセプトと機能、また1番下に、その視点から「市民が集い交流し、情報・人・コミュニティが繋がる場となるための必要な機能」と書いてありますので、この辺りを十分に承知していただいた上で、議論をしていただきたいと思っております。まず機能というところで、今まではこういうものがあつたらいいとか、こういうのがしたいなということが少し漠然としていたと思っておりますが、今日はもう少し踏み込んで何が出来るだろう、何がしたいだろうというところから、計画に落とし込めるような物が出ればいいと思っています。まずホールの方からいきたいですが、規模をこれまでも、前の観光会館の600人という数字から前後したり、1,000人がいいだろうとか、2000人がいいだろうとか、もっと小規模にという意見もいろいろ出ていたり、アンケート結果にもそういうことが出ていました。アンケート結果では厳しい回答、いらぬのではないかとという回答もあるぐらいでした。いろいろ出ていますが、

いらないというのはともかくとして、どういう規模の、そこにどんな機能があるからこの席数でいいのではないかというのを少し議論をさせていただきたいと思います。もう1つ、そうはいつでも新しい機能がどんどん追加されると、その後使用料もかかってくるというのはどこか頭に入れて置いていただきながら、それでも使用料かかるから使わないということではなくて、かかったとしても使い勝手のいい、また使いたくなるようなホールというものがどういうものかというのも、みなさんで考えながらやっていきたいと思います。どなたでも構いませんが、委員からお願いします。

(委員)

市民ホールについては、前にも申し上げたように、今、熱海市民が一番熱望しているのは、このホール建設ということでございます。それで市民の活動の拠点、発表の場、また文化向上の一つとして、コンサートや演劇、鑑賞などにも使用できる。また音響設備などの形式のきちんとした、機能的な、狭すぎず、広すぎずを考えて、私は最低でも500席ぐらいはほしいと思います。300席というご意見もずいぶんあったようですが、300席では小さいと思います。最低でも500席ぐらいは。1000席という数は入場者のこと、アンケートを見たり、また東京を見ましたときにちょっと大きいかないことも思います。最低で500席ぐらいはほしいと思っております。過去のイベントを見ましても、マリンホールで行いました太鼓でも、ざっと500人ぐらいは入ります。ぎゅうぎゅうでしたが。ですから熱海市内のこのいい場所であれば、何かのコンサート、演劇などでも今は情報が発達した時代ですから、お客様も呼べるかと思えます。それで最低でも500席と私は思っております。そのホールはもちろん機能的であり、いろいろ面でコンパクトであってもきちんとした設備のあるホールを作って頂きたいですが、それに付随して小さい子どもさんや赤ちゃんなどを連れても、演劇やコンサート、またいろいろなイベントに参加したいというお母さまたちもおりますので、ぜひ今回はよくあちこちの会場にあります、後ろの方に小さな部屋で遮断した部屋を1つ作って頂けたらと思います。そのホールにつきましては固定式、もちろん今日もそれが出るかと思えますが、固定式もあるしまた可動式もあります。見学行きましたところは可動式でありいろいろな形として使えるという利点もありましたが、また関係者によりますと異音ということがやっぱり大きな問題になって、できれば固定式がいいというご意見もございまして。ですからそれは重々、本当にいま可動式であっても異音などが発しないような椅子があればいいですが、もしそういうことであれば、きちんとした会場を作るためでしたら固定式のほうがホールとしては良いと思います。

そして可動式の利点となれば、熱海の場合は観光地ですから、やはり災害時の事もいろいろ考えますと、やはり広く使えるところということが必要になるかと思えます。先日も第一小学校の体育館も避難のときに使ったようですが、熱海市内の中で宿泊のお客様はホテルを用意してありますけれど、もしそういう方じゃなくて、観光、もしくは宿泊して帰りがけの方なども熱海市内に多くいたときに、万が一にもそういう災害が起きたときのことを考えますと、移動式の方がいいのかなと思ったりしますが、ただコンサート・演劇いろいろな面を考えましたときには固定式がいいのではないかと思います。

(花井委員長)

順番で少しご意見聞かせてください。

(委員)

私は自分の暮らしに置き換えてみると、なかなか例えば今自分の乗っている車が壊れてしまったなんていう時に、買い替えを考えるわけですよね。そうするとやはり同等のものとか今の暮らしとか生活とかを考えると、子どもが乗り降りしやすいようにするとか、条件というのは似たり寄ったりのものを選んでくると思います。これまで熱海市には、600ほどの座席数のあるホールというものが存在したわけですから、これからまた新たに作るというふうに考えたときに、やはりそれ以下のものっていうことを選択するというのは、すごく勇気のあることだと思います。同等もしくはそれ以上のものというふうに人間誰しも欲がありますから、そう考えるというのは1つあるのかなと思います。いただいた資料を読んでいると、旧観光会館の延べ床面積が1784㎡ということで、今度岡本の跡地というのは建築の床面積が1800㎡にがしということですが、地形と言いますか、土地の形も違うものですから、そこに同じホールの大きさっていうものを考えると、なかなかすんなりと落とし込めるのかどうかというのは、専門家ではないので分かりませんが、そういう諸条件をやはり鑑みの中で、最大限座席が確保できるようなホールの在り方というのを念頭に置きながら、譲らなければならない今の経済情勢ですとかいろいろなことを鑑みて、落としどころを見つけていかないとならないかなと思います。漠然とした意見で申し訳ございません。

(委員)

ホールに関してなんですけれども、今回のやはり立地条件を考えたときに、駐車場の問題というのが、市役所の中に駐車場を併用するという案がありましたが、それで一体どのくらい取れるのかというのが具体的にこないとあちらのホールの方も一度にたくさんの方が入って出ていきますので、検討しづらいと感じています。後もう1つは、そのホールでやっぱり何をやるかということをやより具体的にイメージして、イメージするだけではなくて今ある団体であるとか、周りで使いたい方、市民の方に、ヒアリングをしっかりと行ったうえで席数を決めるべきだと思います。周りのホール、近隣地域のホールを比較するという話は前回から出ていますけども、やはり調整していくべきではないかと思います。

(委員)

私もホールについては、どのような使い方をするかを中心に考えた方がいいのではないかと思います。これはまったく想像ですが、おそらく市民の方が自分たちがステージ上にあがることを想定して、発表の場ですね、文化活動とか生涯学習とか発表の場であり、かつ集会とか講演会的なものが一番多く使われるのではないかと思います。規模も質も良いに越したことはないとは全く当然のことですが、ただ何に使うか、誰が使うかによってランクというか、そういうものを検討する。大きさもそうですけども考える必要があるかなと。市民の方が日頃の学習とか活動の成果の発表の場のグレードで舞台上上がった人が呼べる、お客さんを集められるくらいの数。また質の高い芸術を鑑賞するというのも当然ほしいところですが、質の高いがどのレベルかといったときに、世界的なレベルなのか、日本のレベルなのか、東日本レベルなのかとか、そういうことを見て、では自分たちの仲間ですという募金とかをして、そういう出演者を招へいできるかっていうと、なかなか市民

の活動のレベルでは難しいので、国際的なスターが来る場合は東京に見に行くけども、国内で活躍している方あるいは地元にはゆかりのある方をお願いをして出演者として立っていただいて、何枚くらいチケット自分が売れるかなってそんなイメージで席数なんかも考える。質と共に規模も考えたら、ちょっとイメージしやすくなるのではないかと思います。というのは、私も作る場面で、ここで意見を言って手を放してしまうのではなくて、その後の運営にまで関わっていくことを考えると、今でも知り合いのコンサートをお願いをしてやってもらって、チケットを売るのが自分が20枚預かってしまうと持ち出しになってしまいます。どうしても売れるのが、いつも買って下さる方で5枚6枚。ちょっと頑張っても10枚ぐらい売ったとしても、やっぱり5枚くらい持ち出せない一つのコンサートを開けない。そういう状態ですので運営はのちのち負担になっていくこともイメージしながら、規模や質も考えたらいいのではないかと思います。

(委員)

今までのお話を伺っておまして、やはり1番ホールで使うケースが多い場合は、やはり市民の方の発表の場というのが多いと想像されますが、そういった場合にあまり大きすぎると逆に使い勝手が悪いような気がいたします。かつての観光会館が座席数605となっておりますが、あそこは2階と1階がありまして1階部分は確か約400席だったと思います。400席もいっぱいになるというのが、なかなかあったのかどうか。例えばピアノの発表会ですとか、合唱の発表会とかそういうときに、400席でもどうか。やはりたくさんお客様がいらした方がステージに立つ方もやりがいがあるかと思いますし、あんまり大きな席数のところで、お客様がちょこちょこというよりは程ほどの大きさでっていう方が、いいような気がいたします。やはり使う方法みたいなものを予測して、大きさを考える必要があるのかと思っております。

(委員)

現在ホールがない状態なので、実際にどれくらい来るかというのは予測が難しいと思いますので、基本的には今そういう活動されている方にどれくらいの集客ができるのか、そのあたりをヒアリングする必要があるのかなと思っております。熱海市観光地というところもあります。今回、基本的には市民が中心になって利用するという。そう考えると今までの利用実績もそうなんですけども、実数言っているのか分からないですけど、やっぱり300席くらいになるのかなと思っております。

(委員)

私たちは熱海読み聞かせの会ですが、年に1回講演会開いていますが、起雲閣の申し込みが音楽サロンで100人ちょっと、小さな会ですので毎年十分できています。なかなか大きいホールのことまで思いが至らず大した意見もなく申し訳ないんですが、みなさんの意見を聞いてどう使うのか、どんな団体がどういうふうに使ってもらうのか、いろいろな意見を考えることが大事だと、いま皆さんの話を聞いてよく分かりました。そうでもない作った後で、利用されないということになってしまうのがもしあればそれは残念なので、たくさん皆さんが利用しやすい、いろいろな方が利用出来る目的を持ったホールが良いなと思えました。

(委員)

私は初めから使い勝手の中で、このホールで何を行うのか。今話がありましたように、市民の皆様が使うのか、これはもう当然だと思いますけども、収益事業ですね。やるのかどうか。このあたりが分かれ道だと思います。収益事業を当て込んで、東京の方からいっぱいコンサートとか演劇をそういうものを呼んでくるのであれば、最低でも500席は必要になってくると思っています。席の関係なんですけど、椅子がやっぱり段差をしっかりとらないと、前の人の頭で見えないと。日本人も大きな人小さな人いますので、大きな人が前に座りますと見えないという非常に困ったことが結構東京、宝塚でもそういうホールが結構ありますので、新しく作る場合は、そういうことも配慮していく必要があると思います。

熱海で観光会館にベーゼンドルファーという素晴らしいピアノがありました。こういうものが十分活用できるようなことを考えていただきたいし、新しいホールには良い備品とか、そういうものを用意して、それは無料ということではなくて、有料で貸し出しをしてももちろん結構ですし、使い勝手については収益をしっかりと考えた形の収入を考えたなかで、取り組んでいったほうが良いと思います。市民の皆さんが稼働率を高めるという部分がありますので、使い勝手のいいなかで、委員もおっしゃってました、アンケートの中で市民の皆さんの意見が聞けますので、そのあたりを抽出して取り組んでいくとよろしいんではないかと思っています。私は経済界の代表という形になっておりますので、このホールによって宿泊だとかアフターコンベンションの飲食だとか、そういうものにつながれば非常にありがたいと思いますので、そこも鑑みてホールの数、形状、こんなことを考えていただければと思います。

(花井委員長)

ありがとうございます。皆さんの意見を聞きながら、私も旅することも多いので、いろんなホールを見てきましたが、やはり200席、300席となると、例えば熱海に置き換えると余程市民の皆さんがしゃかりきになって回さないと逆に小さすぎて回らないです。逆に400席、500席になると、市民の人が回しながら、委員が言うような外からも人を呼べるっていうリサーチ結果は結構聞きました。今ご意見いただいて1,000席という規模は出てこなかったもので、私はもうそれはもういいのかなと思っています。500席とか同規模というの出ていますけども、そのあたりでもう少し議論したいと思っています。今もありましたように何をやるかというところで、一番近いところにいらっしゃる委員は、コンサートをするときに、どういう形のコンサートなのかそういうところもしお聞きになっていけば教えてください。

(委員)

まずコンサートとか演劇のその前に、市民の活動の発表の場として最大に使いたいわけですね。現在本当に四苦八苦しなながら、あちこち使っております。そしてまた子どもたちも例えば成人式。昔は観光会館でやっておりました。私も社会教育委員のときにずいぶん参加しておりますが、ぎゅうぎゅうでした。下の階はぎゅうぎゅうになりまして、そして2階の階を使うところございました。今はMOAを使わせていただいておりますが、そういう場。もしくは中学生たちの立志式、音楽発表会。これは子どもたちも市民でございますが、そういうふうに普通の例えば私どもの文化団体連合会にしましても、音楽・フラダン

ス・レクダンスとか各発表がございます。そしてまたそういう方たちも自主事業で。以前音楽で韓国の関係で大変な人数を呼んでいただきました。ですから300席とか400席という数ですと、ある程度器を程よく大きくしていれば、小さく使う団体のときは、境界線をはったり。よく観光会館の時もここから先は使わないようにというような境界線を作ったりしていました。小さければそういうこともできませんが、大きければ。大きいといっても1,000席とかではないですから400席、500席であれば、程よく皆さんゆったりとした感じで、例えばお客さんが200人、300人しかなくても、ゆったりとした椅子席で使えると思います。熱海市文化団体連合会に言わせますと、主に使いたいのは、音楽関係とか、そういう方たちが多いですが、学校関係も今マリンホールで音楽発表会もやっているようですから、そういうのも全部こういう会場で使えるわけです。ですから市文連だけということではなくて、踊りの先生にしても、そういう会場があれば使うようになると思います。先程おっしゃっていたように、市民の皆さんが少しでも使うようにみんな一生懸命心がけて。100人だからちょっと大きすぎるという考えではなくて、器はある程度取っておいて、その中で100人でもいいと思います。200人が使おうが、300人が使おうが、無理してぎゅうぎゅうにしなくても。目黒のユースポート行っておりましたが、会場の半分ぐらい、椅子席がずいぶん空いておりました。小田原の市民会館も発表会で行きましたが、100%ということにはなかったです。ですから椅子席の大きさと会場の大きさにしましては、熱海市民の方が200人しかそのとき観客がなくても、私は良いと思います。あちこちを見まして小さな会場にぎゅうぎゅう入るのではなくて、ある程度のゆったりとした会場にいろいろな発表会であれ、音楽の発表会であれ、学校関係がずいぶん使えるようになるのではないかと思います。市民として考えたときに、ただ皆さんが習っていることだけを発表ということだけではなくて、学校関係でもずいぶん使える、幼稚園関係でも使えるようになると思います。いろんな発表会において、以前の幼稚園の発表も観光会館でやっていました。それが出来なくなって仕方なく他のところでやっているという状況ですから、みなさんが心がけて横に手を広げて、いろんな形で使えるようにすればいいかと思います。その中で、自主事業としてコンサートとか演劇とかそういうのを呼べたら、なおかつ収入の面でもよろしいんじゃないかなと思います。ですからコンサートとか演劇が主ではなくて、市民の方たちのいろいろな活動の拠点として、大きく作っておいて小さな人数でも使えるという形が望ましいと思います。

(花井委員長)

その点で例えば、先程も言いました使用料ですね。200席で作った時と500席で作った時と多分使用料は変わると思いますが、それはお近くの皆さんは良しとするみたいのところはあるんですかね。

(委員)

使用料に関しましては、減免とかいろいろな形が今までもございましたが、ああいう自主事業で減免かというのもございました。そうかといって私どもの子どもの発表会のように、減免処置なんかをしないで本当にそのままやったこともございますが、市民が使う場合は極力減免という形をとって頂きたいと思います。それで外からの場合はそれはやむを得ないと思います。良い会場であれば使っていただくのに。ただ本当に学校の場合はどう

でしょう。無料になるのかもしれませんが、市民が活動する場、まして市民文化団体連合会にしても人数の多いところ、また少ない団体さんもございますので、あまりに高いと今度使用できなくなってしまいます。ですから、今起雲閣を使うときにも、私どもでも自主事業のときは全部お支払して何万円というお金を。パネル1枚をいくら、スポットライトをいくら、エアコンがいくら、時間もしくは何日っていうのをお支払していますが、本当に会が大きければそういうのを払うのは楽なんですけども、会が小さければ本当に大変で使えなくなってしまう。せっかく良い会場があっても使えないというのを考えましたときには、極力減免ということで、お安くして頂けたらと思います。

(花井委員長)

ありがとうございます。他には何かアイディアとか、またこうしたらというのはありますかね。委員いらっしゃいました。今ホールについて、規模はだいたいみなさんから出て、300席から600席ぐらいまで出て、大方が400、500席で進んでいます。それに準ずることはまだまだしていませんが、委員の意見お持ちであれば少し述べていただければと思います。

(委員)

まずもって遅刻しまして、大変申し訳ありませんでした。自分の周りの人、知人に伺ったところ、やはりホールの規模というのは、本当にいろいろな考えをお持ちの方がいらして、500人というお話を聞きましたが、大きな話になってしまいますけども、目的が何なのかってところが最終的に決めざるを得ないところだと思いますが、それが興行目的だと1500人規模だとか、そういうお話がたくさん出てきました。今もう話を聞いたら、そのニーズの500人というのが出ていたので、それに関しては、市民が使うべきホールというところで、もっと目的がいろいろ絞り込まれていくと思います。このような大きな話で申し訳ないんですけども、その中でやっぱり規模よりも、質ですよ。質がどれだけみなさんのアイディアが反映されるかということにあると思いますので、規模が想定されたとしたら、そこからは全国的にどのような手法でしているかということもあります。ワークショップですとか繰り返し繰り返しそういうものに落とし込んでよりよいものにしていきたいという気持ちがあります。

(花井委員長)

少し今規模の事も出ましたし、質の問題。質は委員がおっしゃたように、中心は市民ということでその余力といいますか、そこで外からの使用かなと思いますけども、先ほど委員からもありましたように人の頭が重なってしまうと。この間私は福井県の美浜町というところに行きまして、ホールをせっかくなので見ましたが、そこが一番のネックだとおっしゃって、頭が絶対被らないようなホールに仕立てられていました。その代り呑んだというところは傾斜なんです、傾斜がかなりつくという。ゆるやかにすれば頭が見えますが、傾斜をつけると人の頭は見えない。今日はすぐに決める必要は無いんですけども、これから片方にあると片方に歪みとか何か我慢しなければならぬことが出てくると思いますが、ただ素敵なホールでしたね。座ったら素敵なホールで座るまでは結構階段が横浜スタジアム並みになっていましたから、大変だな思いましたが、そういうことを少し頭の中に入れていただきながら、もう少し質と機能みたいなのを議論して頂ければなと思います。

逆に読み聞かせとかそういうイベントをやろうとすると、どういうホールがいいですか。

(委員)

そういうホールを使ったことがなく、図書館の会議室をお借りしたりとか、起雲閣で十分だったので、いろいろなところには出向いて、この前六本木ヒルズの前にEXシアターに行ってきましたが、おっしゃる通り外から階段を3階層上がると一番上がそうでしたね。そういうのを熱海に欲しいとか全然思っていませんので、私は別に特に自分の会ではそんなに希望はこういうのがなければというのはないですね。会では図書館に読み聞かせをするコーナーがほしいとかそういうのはありますが。

(委員)

ホールのコンセプトとしまして、やはり音響が一番大事だと思います。そして照明、それから電力確保、相当使いますので。それから舞台の広さ。舞台の広さは大事かと思いません。奥行き。それから座席など。この間、行ったところなどは、会場にすぐに大道具のトラックがつくようでしたけど、ここの傾斜のあるこの土地ではそれはちょっと無理かなと思っていますが、大道具の搬入路っていうのは、別の確保しなければ他方から使うにしても、熱海市民が使う場合にも必要ですが、やはり外部から大きいなものを呼ぶときには大道具の搬入路っていうのは必要になるかと思えます。あと楽屋とかリハーサルとかレッスン室、練習室みたいなものは、それはもう付随して必要ではないかと思えます。それを通常は普通の方たちが使ったりする事が出来ると思えます。レッスン室にしても演習室にしても学生たちも使えますし、一般市民もまたそれを使って、日々のレッスンができるかと思えます。そういうものはいるようになるかなと思えます。

(委員)

ホールの規模を決めるうえで、いま外から呼んでイベントをというお話が出ていますが、それは果たしてどれくらいの可能性を持ってみなさんがお話されているかというのがちょっと分からないので、お聞きしたいです。

(花井委員長)

これまでってどうだったですか。人を呼んだというのは。

(委員)

昔は観光会館がちゃんとしておりましたので、いろいろな形で子どもたちのミュージカルなんかもありましたし、大人の方の和太鼓の演奏だとかピアノのそういうのもございました。ただ観光会館が使えなくなって、本当に会場がないために、起雲閣の音楽ホール。音楽ホールといいましても、音響設備も何にもない、お客さんもぎゅうぎゅうつめて100人ちょっとぐらいの会場。今本当に例えばいい発表したくても出来る状況ではないですね。すぐマリンホールと市では言いますが、マリンホールはもともと体育館として作ったもので、そこを展示場にしろ、コンサート会場にしろっていうのが元々無理な話なんですけども、そこを上手に使ったりしている状況なんです。起雲閣ということおっしゃっても起雲閣自体はもともと旅館であり、そういう宴会場みたいなものはギャラリーとして使っていますが、天井も低いですし、展示会場としては本当に不向きなところにパネルを無理に使っているという状況なんです。音楽関係の発表においては、マリンホール、そこでは本当にできる状況ではないので、学校関係も無理して使っている。また市民の方のそう



いう発表においても、起雲閣においても、全然音楽発表ができるような場所ではないところを無理に市民みんなが各団体が試行錯誤しながら、使っているという状況なんです。ですからお客さんをもっと入れたくても入らないという状況ですね。

(花井委員長)

それはどちらかという熱海市が目指すのはクラシックなんですかね、演歌なんですかね。そのあたりは。

ある場所でホールを造ろうとするときに、例えばの話で、そこで出たワークショップの意見は『氷川きよしを呼ばなくてもいいホール』と言っていました。それだけの人が来る必要は無くって、それよりは市民の為のホールを造りたいというワークショップをしていました。熱海でホールという、例えば個人でも演歌を呼んで何かしようかなとか、クラシックコンサートをどんどん外から呼びたいのか、いやいや子どもたちのための音楽ホールとしてどんどんやってもあんまり響かないとか、もう少し踏み込んだ意見を聞いても良いですか。

(委員)

わたくし自身の考えとしましても、文化団体連合会の意見としましても、まずは市民ですね。現在使っている方たち、一般市民の方。また最終的には、未来の子どもたちのために良い会場がほしいということが念頭にございます。今子どもたちが使っている会場は私もいろいろ見たりしていますけど、無理に使っているような状況ですね。ですから、そういう音楽ホールの立派なところで、未来の子どもたち、小学生にしても中学生にしても、そういうところで音楽発表会なんかもぜひさせてあげたいと思います。

(委員)

旧観光会館に直接ではないですが、なんとなく近い部署に通算で10年ぐらいいましたが、その間で純粹に外から観光会館でやりたいんだけどって言ってきた音楽系のものは、おそらく私の記憶ではないので、あっても数件なんだと思います。逆に起雲閣には通算で4年ぐらい関わっていましたが、年に5件6件はここで催しものやりたいという音楽系の売り込みがありました。それはおそらく観光会館の機能の面から、興行主とかエージェントには選ばれなかったからではないのかなということ。逆に起雲閣が観光のお客さんも呼び込む事が出来るので、プロモーターとしては魅力的だったのかなという違いがあるんだと思います。旧観光会館のときには、音楽系でこちらから来てくださいと言ってやったいろいろ音楽のコンサートがありますが、やはりフルオーケストラは当然舞台の大きさから無理でしたので、合唱でも舞台50人上がるときつきつなのかなと思いますので、例えばクラシックでいえば室内楽程度。それからソリストのコンサートなんかも当然ありましたけど、その位だったと思います。ジャズのビッグオーケストラが入ったことも確かあったと思いますが、音響の問題で難はありました。機能としては当然元の観光会館より上がることを望みますけども、受け入れる側として、これも良いのが無かったから来なっただけという判断もありますが、変な良い方をしましたが、そのくらいのレベルのコンサートなのかと。それも市が何らかの関係で、先ほどから出ていますように、子どもたちに質の高い芸術を鑑賞させたい気持ちとかで呼んで、来てもらったものが主だったと記憶しています。

(委員)

私も過去に観光会館の使用状況の中に、最後に一番入ったというのはNHKの金とくという番組の中で、長山洋子さんや美川憲一さんのコンサートをやりました。これが最後の方の状況だったと思います。やはりこれからの次にまた管理・運営の方にまた移って行くと思いますが、運営・管理をやるかによって、そのやり方によって仕掛けで収益事業を重視していくという形で考えた運営者が、やはり東京とか、そういうところで売り込みをどうしていくのか、それによって使われていくのではないかと考えています。ですから熱海は市民だけだということであればそれで固まってしまうかもしれませんがそうでなくて、もうちょっと端的に東京からもいいミュージシャンでも呼んで、ぜひ地元の皆さんに近隣の皆さんに聞いていただいたりとか、あるいは東京から来ることによって、東京のお客さんが泊まりながら、またコンサート聞きたいということであれば、ベターかなと思っています。

(花井委員長)

その可能性としてはありますよね。逆にアーティストとのツアーを組んで宿泊も食事も含めて、高くなっても、それは組み合わせてあるのかなと。運営方法でもあるのかと思います。いろいろな事例、今はビックバンドまで出てきたっていう話がありましたけども、僕もまだまだリサーチしていませんが、そういう場合はステージの長さが変わってきますよね。大きさといいますかね。茅野市はかなり大きかったですから、あそこまでとは言わずとも、そこが逆に何をやりたいかというのが関わってくると思いますが、何かそのあたりで。

(委員)

三島の文化会館は書道で表彰式でも大きい会場でしたが、また沼津の方も表彰式でも昔はよく使わせて頂いていました。やはり熱海の観光会館の舞台は、本当にこの辺では狭い方だったと思います。ですから例えば、同じ和太鼓の演奏を、東京で同じ方がやるのを見ても動きも大きいし、熱海の観光会館では奥行きも幅もなかったもので、小さい感じの動きだったり、同じものでもそう感じた事があります。舞台は旧観光会館が本当に昔に作ったものですから、狭かったと思います。ですからやはりそういう面今度考慮して広々と少し使えるように舞台も造った方がいいかと思っています。

(花井委員長)

和太鼓の話題はびっくりしましたが、かなりの音響だし、人数がそれだけあるとステージがかなり広いじゃないですか。有名人を連れてくるとなると相当大きいですね。

(委員)

三島でも沼津でもこの近隣ですね。この近隣でさえ、8月になって舞台がきています。ですから出来ると思います。熱海でほどよい大きさであれば出来ると思います。三島とか沼津、小田原も年中そういうのをやっています。三島は特にやっていますね。舞台でも音楽でも。ですから発表会、市民の方のピアノの発表会とか8月も相当入っておりました。夏休み時候のときに。年間で稼働率が100%だということはないと思いますが、舞台は極力広くゆったりと使ったほうが良い方たちも呼べるし、学生たちも大勢舞台にあがってやるっていうのもできるようになるかと思っています。

(花井委員長)

ここまで少し1時間程度話しましたが、委員はどうですか。

(委員)

ずっと聞かさせて頂きました。規模の事はちょっと抜きにして、私が一番思っているのが、ちょっとホールの中で分からなかったもので、専門家の音楽の方々にちょっとお話を聞きました。観光会館の場合、私も前に申し上げたように、非常に機能が良くなかったということで、使用状況というのがあまり上がってこなかったと私は見えています。今回せっかくここで作るのですから、専門家の方々にヒアリングを当然すべきでしょうし、その中で最低限音響、照明、これはきちんとしてもらいたいと思います。それと舞台の広さはある程度の広さは必要だと思います。元の観光会館本当に狭かったです。だから単純に考えて、あれの倍くらいは最低でも必要かなと思います。そんなことを考えていくと、先ほど委員がちょっと言ったように、敷地面積そのものは今までとそんなに変わらないということになってくると、果たしてそこにどういう形で収まるのかなと思います。その中で収まる形状の中で、例えば前回と同じように少し傾斜をつけて、その上にも斜めの2階席を作るとかそういうような形になって、できれば前回と同じぐらいの600席というのが、私の1つの希望なんですけども、そこはそこの建てる場所に応じての大きさになってくるかなと思います。一昨日新聞にも出ていましたけども、市民パレードがありました。渚町公園に集まったのが550人です。そうするとずっと観光会館でやっていました。先ほど400人と言ったら全然入らないですよ。熱海でみなさんよく人が集まらないっていうけども、集まっているんですよ。ただ場所がないから集めないだけであって、きちっとしたものが出来れば、それなりに皆さん声をかけて集まってくると思います。それと先ほど公演をどうするのか、民間の力で収益事業ですね。私が子どものときには、半世紀くらい前ですが、観光会館は新しかったもので、歌手やなんかが結構来ていました。そのたびに私達子ども心にそれ喜んで見に行きましたよ。並んで入ってそれで本当に生の演奏なり、歌を聞いて本当に感動を受けました。それは今の子どもたちも変わらないと思います。そういう事が出来るような場所を私は市民が集える場所という形で作って頂きたいと思います。ですから運営のどうのこうのは確かに大変ですよ。大変ですが、これはワークショップを作って検討していけばいい問題であって、最初から大変だからやめようではなくて、前向きに。大変だと思うけども、未来の子どもたちにとって、そういう生の感動を与えるものをぜひ熱海でやってもらいたい。そのためには大人が苦勞すべきだと私は思っています。

(花井委員長)

ありがとうございます。だいたい意見をまとめてもらったと思います。もう少し一歩進んで、これはここで決を出す必要は無いと思いますが、可動と固定という。先ほど委員から出ましたが、これからホールが出来たとして500人になるか600人になるかとしても、そこで和太鼓とか、ビッグバンドとかいろんな要素が出てきました。外からも中からも学校関係者からも出てきましたが、そこをイメージしながら、それは固定式だけでいいのか、一部動かそうか、全部動かしてもいいじゃないかって。ちょっとそこ少しだけ意見を交わしていただければいいかなと思いますが、いかがでしょうか。

(委員)

茅野市に視察に行きましたときに、全部可動式でございまして、いろいろな形が出来るようでした、ファッションショーとかもできるということも聞きました。ただ私があちこちから聞くには、やはり可動式でなく固定式がいいという意見も本当に多くあります。特に音楽関係の方なんかは、きちっとした演奏をしたいという方が多いわけで、聞いていただきたいということで、私どもちょっと展示の方では分からないようなこともあります、その形状がやっぱり高く斜めに作るのであったときに、全部が固定式ではなくて、途中が別のところが可動式、例えば2階になることも可能性としてはなってきますね。会場のつくりとして。土地の具合によって、全部が広い、高いというふうになるとは限りませんので、その状態によって、移動式のところが少しあってもいいのかなとも思います。私はそうと思いますが、やはり多くの意見はホールは固定式で。そして展示場なんかに使うオープンスペースみたいなところは可動式だということいろいろな方向で使いたいという意見が多いです。ただホールとしては固定式が望ましいということは多く聞いております。

(委員)

座席ですが、例えばそのバンドの規模によって、ステージの数が限られてしまうということであれば、ステージ最前列の席何列かは可動式にして、場合によってはステージがせり出すような仕掛けを作つてあげると。そうすればビックバンドが来たときに、収容力があります、ステージの方は十分に広さは担保できるのかなと。それをやることによって車いすの方なんかが多いようなイベントというのは、最前列であると階層が1階から入れるような位置関係になってくると思いますので、車いすの人も十分にご利用出来る。一般的な車椅子以外にもストレッチャーのような、ベットのよう車いすをご利用になられている方もいらっしゃると思いますので、本当に幅広くご利用いただけるようになるのではないかと。そうするとやはり前方の何列かは可動式で後はしっかりとした固定式とか、そういう併用の在り方というの、1つ可能ではないかと感じます。

(委員)

他の会場で見た事ですが、最前列から何列目までということ、それが下へ床に入るといことも出来ると思います。そういう可能性もあります。そしてそこが演奏やるところがそれが下がったり上がったりということ、出来ると思うんですね。そういう形も取れなくはないと思います。それで先ほどの車いすの話。真ん中は固定式であっても、両面横は可動式にすれば、またいろんな利用法も出来るようになるのではないかと思います。

(花井委員長)

ありがとうございます。他にはどうでしょうか。

(委員)

それもおそらく人口30万～50万人クラスのまちの文化センターの小ホールあるいは中ホールでよくあるパターンですが、今いろんな方法が技術的にはありますので、客席がロールバック、後ろにさらっと壁になってしまつて全部出すと傾斜があつて。それがあつてかつ舞台も上下する。真ん中部分は下げれば、オーケストラピットになるし、あげれば普通の椅子を並べて、客席になる。あげればステージが広がる。そういうことでも本当にいろいろな機会はいかようにもできるというのは確かにあると思うんです。熱海市内では割と社交ダンスの方がやる場がないとおっしゃいますので、フラットになれば社交ダンス

なんかに出来る。あとフラダンスの方も結構いろいろな活動されています。そういう方はステージが広ければなおいいと思いますし、なおかつこれは欲を言えばバルコニー席があれば1階を全部フラットにしてしまっても、2階の客席から下を覗き込むようなスタイルが出来て、例えば何百人かのコンサートがそこで出来る。全く平らにしてしまえば、50人とか60人の円卓にしてその上に傍聴席を置くとか、そういう使い方も出来るのかなと思います。ですから機能としては、こんなのできないかなといったものが、だいたいできる。それもかなりの精度、ぎしぎしした音がしないというのは昔の話であって、今はそういうのいくらかでも制御できると聞きますので、いろいろな意見出せば多分それに合致する機能設備というのは見つけれられるのではないかなと思っています。

(花井委員長)

他にはどうでしょうか。技術的なもの、いろいろあると思いますし、また音の問題ですね。特に音楽をやられている方の音の問題はかなりシビアなものがあるので、そこは考慮していかなければならないかなと。今度逆を言えば多目的に使うホールを考えた場合は、やはり私もこの見てきたことですが、ロールバックのどこなんかはいろいろな人がリハーサル室という話もありましたけど、リハーサル室がないホールなんかは、ロールバックを下げてリハーサルをそこで前もって借りたりとか、そうしたホールもありますし、多目的にいくのか、本当にかちつとしたホールにしていくのか、また少し用途は違うかもしれませんがステージを広くしたり、そういうところの工夫は面白いなという。あと少し皆さんの意見を踏まえて、事務局とまとめていきたいと思っています。

時間がホールだけで経ってしまったので、少し展示またギャラリーについて少しもう一度みなさんで議論していきたいと思いますが、ここもやはり機能ですね。こういうふうなものをやりたいから、これぐらいの広さが必要になるだとか、これがやりたいからこういうものがないと、どうしないといけないんだとか、そのあたり、委員が訴えてきていただいていますけども、おさらいも含めて少し思いのたけを言っていたら。

(委員)

熱海市文化団体連合会に所属しています展示の方たちというのは、美術から書道から山草会、押花とか手工芸とかいろいろございます。そのほかにも学校も例えばこの会場でもパネルを使いまして、展示をしてたんですね。それが今は本当はないということで、例えば書道の1月の末から2月の中旬にやります、県の書き初めにしてもマリンホール、体育館の舞台を使って、それも大工さん呼んで1回無料というか本当に何百円しかいただいてない展示の発表会に、何万円も出して大工さんを頼んで展示しなければ展示が出来ないという状況で今もやっています。この会場があった時は観光会館がなくなって、ここが使えるようになってこの文化会館のこの会場もパネルを使っていました。それも市の方のパネルがあまりに少なくて、文化団体連合会で相当な金額を積みまして大きなパネルをしたということですね。ですから文化団体連合会そのものとしては、起雲閣などを利用していますが、それで起雲閣はもともと先程申し上げたように、展示会場ではないわけですね。ですからガラス窓があったり、障子のようなところもあって全然そこは使えないわけです。それで起雲閣が一生懸命パネルを用意していただきましたが、それも低いパネル。とても東京の方では見られないような低いパネルを利用しています、書道も大きい作品を

生徒さんに勉強させることもできなく、展示もできないということで、小さな作品を利用しています。大きな作品も練習してお弟子さんたちは出せていたのですが、そういう展示の部屋そのものも展示に使う物品も、揃っていない状況でやっています。部屋数もないもので、みんなで考慮して、この日に使いたいという意見があっても、それをみんなで融通し合って、やっとの思いでやっています。私は展示スペースは平土間で十分だと思います。それで展示部門というよりもイベントスペースみたいなオープンスペースというものがあって、例えばここがそういう会場で平土間の大きな部屋としたときに、展示が区切れます。ですから例えばこれくらいの会場があったときに、3つぐらいに区切れるように。例えば1つにも使える、また2つにも使える、2分の1と3分の1で。もしくは部屋数が展示に使ったときは3つとかそういうふうなのもあったらいいと思います。やはり展示するには、出来る限り天井が高い方が美しく見えます。熱海の場合は、天井までの配慮がないもので、本当は最低でもこのぐらいの高さは必要になってくるんです。特に書道、美術の場合はある程度四角いものが多いです。押し花にしても書道でも、大きい作品になったときに、あのドアぐらいのものを飾りたいときもございます。今ないものでとにかく小さい作品ということです。こういうオープンスペースというかイベントスペースみたいな形で平土間で、そして天井からさっと区切れるようにすれば、会合がぶつかったときにも、最低でも2つ出来ます。これよりももうちょっと大きければ3つぐらいの会場が出来るわけです。ワイヤー、熱海市民が使う場合は、若い方よりも年配の方たちのグループが特に使います。ですからワイヤーということが1つのネック、大変になってきます。その時に文化会館の向こうの、時計がありましたところの壁面は小さな穴の開いた壁面でやっていました。それできれいにできます。それと同じような壁面を使って展示をしておりましたので、そういうワイヤーを使うのは、年配の方たちが台にあがったりするのが大変であれば、そういう簡単な方法でできる方法で、なるべく市民の多くが使えるように。展示の場合は外部の方は割と少ないです。起雲閣は申し込みが多いというのは、旅行のお客さんがほとんど見てくださいます。ですから誘客としては人数的には多いです。ただ狭いということですね。そして壁が展示場には向いていないという。下はいくつか展示向きの部屋もあるようですが、ギャラリーにしてもまったく展示には向いていないお部屋です。ですからスポットライトなんかも展示会場にありますけど、ちゃんとした照明があればスポットライトは必要ないんですね。東京では無理してスポットライトするよりも、天井にきちんとした電気の配分をしまして、ガラス面にいろんなものが映らないような配慮をしているわけです。ですからそういうこと考えましたときに部屋がとにかく1つ欲しい。もしくは椅子とテーブルを用意できれば、会議場にも変わることもできると思います。使っていないときは大きな会場にもなりますし、小部屋にして小さな会議場ということにも使えるかと思えます。またもしくは避難時のときには、その平土間がそのまま避難場所にも使えるというふうに私は思っております。

(花井委員長)

ありがとうございます。イベントスペースという価値観が少し出てききましたが、そうすると、ここは先月話した図書館というものもありますし、図書館またはそのイベントというところが交わっているいろんなものに使えるかなと思えますが、そういう場合、委員さん

どうですか。図書館の機能として一緒に使っていくのはどうですか？

(委員)

今は図書館の会議室、読み聞かせで使わせていただいています。昔話の連携もしているので、そこでも使わせてもらっているのですが、会議室はもちろんたくさん必要ですが、今の会議室の話ではないですね。

(花井委員長)

イベントスペース、こういう部屋で展示が出来て、ここも区切れるようになっていますが、こういうものがあつたら、例えばこういうものに使ってみたいよなつていう、逆の使ってみたいよな意見は。

(委員)

展示はうちの会ではしたことありませんが、函南に行つたら、ホールの入り口のところですかね。天井にパネルが出せるように、普段は閉まってあつて引っ張り出してくる線が入っていたので、広いホールの中で使うときには、展示ができるつていうやり方があるんだなと思つて、これはいいのではないかと思つたのを覚えています。

(花井委員長)

原画展とかやつたりしますからね。

(委員)

やはり展示のスペースというのは、みなさんが歩いてて気になつて、呼び込むよな構造になつていふというお話を図書館のときにもしましたけど、ちよつと気になつた人が入りたくなるよな場所と雰囲気をつくり出しておくべきだと思ひます。なるべくたくさんの人にやはり子どもたちも見てもらつた方が良くと思ひますし、嬉しいと思ひますし、奥まつたところにたまにありますが、分かりづらいつところにある場合もあるんですけど、なるべく前のできればエントランスホールの片隅に雰囲気が感じられるよな位置に反映するのがいいと思ひます。

(委員)

旧観光会館は通つた方がふつと見まして、そして何かやつている、入つてみようかという形で入つていただきました。ここの文化会館のときも、この会場でいろんなものを展示していつときも、やはり図書館も上にございましたけど、図書館に來た方が皆さんののぞいて見ていかれるということがありました。やはり2階とか3階とかつていふ部分よりも、1階つていふんですか。みなさんがふつと通つた時に何かやつている。もちろん看板とかそういうもの設置していつますが、エレベーター、エスカレーターに乗らずとも、そのまますつつと入れるところに、イベントスペースみたいなのがあると一番いいかと思ひます。ただ空いつている時にもつたいないから、それは会議場。ここももちろん展示場でも使つておりましたが、会議でもずいぶんここは使つておりました。ですからもつたいないというこつでいつたら、展示というこつに限らずに、空いつているときは会議場でもなんかでも行事、クリスマス会なんかもこつというこつでやつておりました。ですからいろんな面でイベントスペースとして、展示というこつに限らず、幅をのばして使つたらいいのではないかと思ひます。ただ1階部分がやはりいいかなつて。みなさんがふつと入つてみられるよなこつところがいいと思ひます。

(花井委員長)

他には皆さんの中で意見はないですか。図書館ではそういう要望みたいなものはないですか。もう少しイベント出来るような広さがほしいとか。

(委員)

そうですね。現在の図書館、あの建物借りものの建物ですので、公式には貸し出したりしていないものですから、あまり会議室がどうという話は今のところないです。

(花井委員長)

逆にあつたら、こういうのを逆にサービスとして出来るかなというアイデアというのは出たことはないです？

(委員)

今のところだとどうしようもないので、借りものなのでどうしようもないですね。新しく自前のところがあればまた違うとは思われますが。

(委員)

展示室の関係ですけども、前の観光会館は1階が展示室で2階がホールという形だったので、展示となりますと相当重いものとか作品が搬入しやすいということで、1階という部分で確保されたと思います。1階はやはり人の目にもつくという部分の中で、設定がされていたと思います。そんななかで展示パネルのやはり設置、展示台こういうものが、速やかに設定できるような形を初めから作っておくということで、バックヤードが必要にはなると思いますけども、その辺を配慮しながら部屋の形状を考えていったら良いと思います。

(花井委員長)

ありがとうございます。他に委員どうですか。

(委員)

新しい複合施設が建ったときに、エントランスを上手く工夫して、そういった展示のパネルが設置できるような仕掛けを作っておいて、いざというときに小さな作品展、エントランスホールというのができるというような仕掛けを作っておくというのが一つです。後はもし可能であれば、例えば役所の方にお力添えをいただいて、このお部屋で消費生活展とかやっていますね。引き続き自由にこの会議室をアレンジして、プラスアルファで使えるように構えていく。ここももう少し展示のパネルが設置しやすいように、何かネイルをつけるなり、何なりかの改修の予算をつけていただいて、上手く2つで距離感は非常に近いですから、2つで動くようなアトラクションのマッピングみたいなのを作って、人を歩かせるような仕掛けを作って、今あるものとプラスアルファのもの。あちらに図書館とホールとなってくると、当然会議室のスペースですとか、展示のスペースとか限られてくると思いますので、もちろん向こうにも小さな会議室ですとか、展示ホールとかっていうのを構えるのですが、プラスアルファこういった既存のスペースも使っていけると、非常にスムーズに、いろんなことに汎用性高く使っていけるのではないかと思います。

(花井委員長)

ありがとうございます。出委員はどうですか。

(委員)



私も今の委員の話まったく同感です。自分が置かれている立場がそういった需要が多いのかもしれないですが、研修会ですとか、会議の場でなかなか市役所を使うというイメージが今まで無かったのですが、どうしてもホテルだと間取りに限界が、広い狭いで限界がありますし、町なかの会議室というのもないので、市民ホールの中に会議室作っていただけるのであれば、もちろんたくさん作る必要もなく、こちらとの併用もできるのかなという。ただ市役所が一般社団法人の何々にお貸しするとかっていうことが可能であるということが、あまり知識がなかったので、そういった形になると理想的だなと思いました。

(花井委員長)

今、少しホテルの事とか広さについて少しみなさんから出てきていますけど、だいたい皆さんの頭の中の広さが共通なのかどうかというのはまだ疑問があると思いますが、まだ例えばこの広さなのか、3倍なのか、いろいろ広さの工夫があると思うんですけども、その辺はどういうイメージを持たれていますか。委員、どうですかね。

(委員)

このぐらいの広さは最低限と思って、そしてそれをいくつかに分けて使うということもひとつ考えられると思います。もうちょっとこれが広ければいいなと思います。そしてそれを3つくらいに区切っておいて1つに使った方が2つに使おうが3つに使おうがということで、とりあえずある程度広く使って。そしてやはり会議場。今いきいきプラザなんか和室なんか、めったに使っている事がないです。小さな和室がありますが、暗くて。第1会議室、第2会議室、視聴覚室。視聴覚室も、ほとんど稼働率から考えたら、そんな使ってないと思います。私は年中会議で出入りしてますので。第1会議室でも1日1回あるとは思えないような使い方をしてます。もうちょっと使い勝手のいい会議室。大きい会議室ではなくて、こういうところを例えば先ほど話があったように、ここも普段会議室で使って、大きい場で使ってなければ小さな貸出、空いているときに会議室に使ってもいいかなと思います。昔はこういう会場を全部椅子テーブルを横のところに置いて廊下とかに雑然と置いてあったんです。そんなきれいに片づけて置くというところはありませんでした。パネルなんかも前にザーッと重ねて、このくらいまでは使えなくなっていました。そしてこの廊下のところ、本当に使わないものだらけ。これは実際何かあった時にどうするんだろうかというくらいでした。こういう会場をみんな町内の子ども会のクリスマス会なんかにも、昔はずいぶん使っていました。それいつの頃からか、いつからか使わなくなってしまう。ですから呼びかけをすればいくらでも使うような形はできると思います。使わないから使えないのではないかということじゃなく、もっともっと今インターネットでもいろんなものを発信できる時代になってますから、こういうので使える、ああいうので使える、ぜひ使ってほしい形をもっとするべきだったのかなとも思います。

(委員)

観光会館が取り壊しになってしまってから、離れていってしまったお客さんがどういうものなのかっていうのを今一度考えてみるきっかけにもなるのかなと。それを踏まえたうえで次の施設に対してどういうものを盛り込んでいくのか。今委員の話をついて、小学生の頃、少年野球クラブに入っていて、熱海少年野球クラブの謝恩会、年に1回年末ここをお借りして良く使っていましたし、そういうスポーツ団の子達が集まる場にも、

ひょっとしたらなるかと。そうしたら需要って意外と掘り起こしていくと、いろいろなどころにうまくこちらもPRして、「使ってみませんか」というふうな営業活動というのも積極的にやっていくべきではないかと。それがコンセプトにあるその市民の市民による市民の為の市民第一でプラスアルファ収益というところを考えていくような基本的なコンセプトにあてはめていくようなところなのかなと感じます。

(花井委員長)

いま需要という言葉出ましたけど、実際そのあたりが、今までは過去はこうだったからとか、今まさにここからは想像しながら、こういう人に使ってもらいたい、ああいう人にも使ってもらいたいっていうのが、展示スペースの中にもっと盛り込めるのかなと思いますが、せっかく図書館のこと触れましたけど、せっかくここで合築されていて複合施設になっているわけなので、例えば図書館にはないスペースがもしあると、どういうことが運営してらっしゃる中で、想像でいいですが、こういうこともできるんじゃないかなっていう、ちょっと何かそういう意見でもないですかね。どちらでも図書館関係どちらでも大丈夫です。

(委員)

読み聞かせの1年に一度スペシャルというのをやっています、それは4月に会議室をおさしてもらいましたが、2つ続けて広げてもらって使います。やっぱり親子そろって100人くらいは来るので、今年図書館関係みたいに図書室の方も回る方も使ってやらせていただきましたが、今度新しくなったら、それはどこでやるのかなと思っていましたので、確かに図書室の方には会議室ではなくなるかもしれないので、私たちはこういうところ利用させて使うことになるのかなと。

(花井委員長)

例えばそういう時にどういう道具を。例えば暗転にしたいのかとか、椅子はいらない、そこは絨毯敷きにしたいとか具体的な何か事例があればここにも落とし込めていくと思います。

(委員)

今は小さい子が集まってくるので、絨毯をひいて使っています。後ろの方に親御さんたち集まるように座らせていますが。

(花井委員長)

あかりとか、そのままです。

(委員)

会議室を使っています。

(花井委員長)

せっかくだと思えます。会議室は会議の為に作ってあって、イベントスペースとか、多目的スペースというのは、それなりに道具を何とかしておけば、いろんなものに化けていくと思えます。今がチャンスだと思っていて。会議室って我慢して会議室だと思うんですよ。でも先ほど、子どもたちのために未来を託したいとなると、そこにダメもとでも、こういうものがあつたらどうなんだろうというのを、いま交わしてほしいと思います。やっとなら皆さんが前向きにいろいろな意見、創造性出てくるのかなと思っていますので、他の皆さ

んでもいいですが。例えばこういう人たちが来て使ってくれたらどうなるんだろうと今まで使ってくれた人よりも使ってくれると思うのですが、使いたくても使う事が出来なかった人たちがアイデア生まれるかもしれない。例えば盆栽の人たちが盆栽展をやるかもしれない。そういうことをなんかこうイメージをしてもらって、何か皆さんのなかで湧き出て来るものがあれば、少しずつでも出てきて、いろんな人たちの市民のためっていうのが出て来るんじゃないかなと僕は思うのですが。

(委員)

やはりこの施設をより多くの人に利用してもらえるとということを考えると、ワークショップ的なものをメインに置いたほうがいいと思います。先ほど盆栽という話もありましたけど、お料理がお得意な方もいらっしゃいますし、高齢者の方から小さいお子さんをもっている方々まで、みんなで意見をやり取りできる場でもありますし、最初の市民が集うということには、とてもふさわしい。そして今度もし出来る市民ホールを造ったとしても、そこで繋がっていけるようなきっかけにもなりますし、そのためには先ほど委員もおっしゃっていたように、もうちょっと人のシステムというのを、もっとやっていかないといけないのではないかなというのも先ほどから感じています。

(花井委員長)

例えばどういうものですか。

(委員)

例えば、読み聞かせの会で今夏休みなんかには宿題のイベントをやってくださっているのですが、そういう親子を巻き込んだイベント的なものをやるサークルじゃないですけど、集まりを最初のところをどうやっていいか分からないですが、もっとソフトの方とかいうか人を集めてくるようなところに力を入れていかないと、いくら良いホールが出来ても、良い図書館が出来てもやはり死んだ施設になってしまうと思います。なのでこれを建設するのもすごく早すぎるのではないかと考えていて、もう5年後とか7年後とか、もっと市民の意見とかこういうものが造りたいという強い気持ちが出来てからの方がいいのではないかと考えています。

(委員)

今の話で思いつきました、確か、想像ではなくて、よその人が使うだろうではなくて、自分たちがこれを使いたいというところの要望を受け止めるべきだと思います。今の私たちの話だと、多分芸能人が来るだろうとか、オーケストラが来るだろうとか、そういうのではなくて、私たちがこう使いたいという市民の活動を応援する場にしてほしいなと思うので、確かにここには全然そういう方たちがいらっしゃってないので、そういう意見を受け止めるような、もしかしたら時間が必要なのもかもしれませんし、市民活動を応援するようなステップが必要だと今思いました。それがないと、一体どんな展示室がほしいとか、どんな部屋がほしいという意見が、まるで私たち自身が使いたい部屋が、使いたいと思っていないので、話が出ないと思いました。もちろん文化団体の方はそれぞれあるでしょうが、自分自身がどんな部屋を使いたい、どんな展示をしたいというのがそういえばないなと思って、本当にそうだなと思いました。そういう市民活動レベルがもしかしたら熱海は少ない。まだ市民運動的な、それぞれの活動を自立していくようなボランティアの会とか

が、もしかしたらまだまだこれからそろっていくのかもしれませんが。それに今度の複合施設がそういうものを後押しする大事な建物になるかもしれないとも言えると思います。もう1つは、いろんな使い方という中ではフリースペースがすごく大事ななと思っています。ほんの5、6人で集まって会議したいというときに会議室をおさえるというわけではなく、いろんな方が座ってお話できるようなところがあるようなところがたくさんあるので、そうすると大きい行事があるときは丸椅子とかテーブルとか外して広い部屋になるというのもできるのかもしれませんが。

(花井委員長)

展示ギャラリーとは別に、フリースペースという意味ですよ。

(委員)

先ほどから盆栽の話がでていましたが、私達の方も山草展もここでずっとやっておりました。現在は、やはりここは使えないということで、たまたま起雲閣の方で使っております。そして自主事業としては、やればみなさん来るということをお伝えしたいんですが、紙感謝祭というのを私ども長い年月やっております。ここの会場で使うことになりましたときに、半紙を燃やしたりということが危ないということでできなくなりましたが、長い年月やって講師を招いて今は起雲閣でやっております。そのときに毎年でございますが、夏休みに紙感謝祭の日にちをとって、子どもさんたちに学校関係に声をかけて、和紙のはがき作りを入れたり、それからまたランプですね。紙を使ったランプ作りなどもしております。自主事業でやっておりますが、それも呼べばみんな来ます。何十人という方がすぐに集まります。来年1月29日の日曜日ですが、百人一首大会というのを私どもでやっておりますが、それも100人ぐらい函南の方からも楽しみにして東京からも来たという方もおりまして、私どもで文化団体の方で自主事業としてやっておりますが、やれば必ず長い年月一生懸命やっておりまして、だんだんお客さんも増えてまして、最初何10人だったのが、今は100人ぐらい来てやっていただき、みなさん楽しんでいただいております。そういう事業、長い年月かけて最初は少ないからやめてしまおうではなくて、一生懸命頑張って続けて継続は力なりでやっていけば、年々お客様参加者が増えております。私達、文化団体連合会はなるべく、そういう機会を作ろうとして一生懸命やっております。それにはやはり会場というものが必要になってきます。展示を発表するにも必要、そういうことをするにも会場が無いとできないということです。それを今百人一首大会も福祉の方で、大広間でやっておりますが、お料理を作っております。無料でお汁粉とか豚汁を150人分くらい用意しまして、みなさん参加者の方に召し上がっていただいているんですが、いきいきプラザの4階で料理を作りまして、いちいち福祉会館の方に運ぶという状況ですが、長い年月一生懸命会員の方がみんな力を合わせてやって、本当に100人くらい来るようになりました。ここは昔文化団体でよくミニパーティみたいにして立食で使ったことがございます。そのベランダのところに、焼きそばとかお汁粉とか、火のものを置いて、こちらでみなさん立食でということで、長い年月そういうことをやれば必ずみなさん集まると思います。ですから会場は絶対に必要ということです。

(花井委員長)

他にはどうでしょうか。今もご意見を聞いて、やっぱり場所も必要だし、そのビジュ

アルというか、形というもの、すごい重要だと思います。先ほどホールが音響とか照明が重要なんだとおっしゃったように、展示だけできるとか、そこに会ができると思います。机1つのしつらえでも、その会が円滑になったりとか、展示してあるものが輝いて見えるというのは、すごく重要だと思っていて、ホールとか図書館の議論も大事けども、展示スペースとかギャラリーというのが、もし1階にあったら、入口の方、お客さんをお迎えすることになりますから、ここの意見は十分に皆さんの意見を聞きたいなと思っていて、一生懸命みなさんに仕掛けてはいるのですが、本当は自分のことを思い出してもらって、自分と自分の周り家族でもいいですが、例えばあの人がここで何かやってくれたらこんなことができるんだろうとかいうのも良いと思います。そういうことが少しでも1つ1つ反映していければ。1つの物差し的にはなるのかなと思っています。今日はたくさん委員にはアイデアをいっぱい出していただいて、まだあったらまだ出してもらってもいいですが、他の皆さんはいかがでしょうか。

(委員)

展示・ギャラリーとは若干外れるかもしれませんが、茅野市のホールを見まして、音を出す練習代わりに使っている小ホールがありますよね。これが意外と人気ですというお話がありました。僕ら私たち委員の世代の下の10年後に大人になる世代って多分音を出したい人たちが、たくさんいると思います。いわゆるエレクトリックな音ですよ。ですからそこでバンドの練習をしたりする世代のためのことも考えてあげると良いかなという気がしました。それが茅野市では人気があるというお話で演劇の練習でもいいですし、音量が出せる部屋ですよ。すみません、これはギャラリーとはあまり関係ないですが。

(花井委員長)

今のご意見どうですかね、何か。

(委員)

私の職場でも音楽が好きな方たちがいて、よく練習しています。きっと場所がなくて困っている。私の職場ちょっと大きい建物があるので、使ってもらっているようですが、確かにそういう音楽関係が好きな方は若い人にいるのでほしいだろうなというのが想像できます。

(花井委員長)

これは武蔵境の武蔵野プレイスでもそれ図書館ですけど、図書館と生涯学習センターが一緒になっていますけど、バンドの練習スタジオがあります。そこがティーンズしか入れない。大人は出来ないんですけども、ティーンズは広場があって、その中に音を出しているスタジオも置いてあるんですけども、すごく人気のようです。ここにあまり若い人見かけないんですけども、絶対いると思うので、そういう人たちが、委員、委員がおっしゃるような、ティーンズに絞ることはないと思いますが、そうはいって例えばそういうものがフリースペースの端っこにあったとしたら、どれくらいの広さが良いですかね、広さ的には。

(委員)

すみません、よくガレージバンドというぐらいですから、それぐらいのものかなと思いますけど、とにかく防音性のある、そういった部屋ですね。

(委員)

前に申しあげました、演習室もしくはレッスン室、そこがそういうのにも使えるのではないかと思います。そしてそこはミニコンサートなんかも出来るのではないかって思います。ある程度の広さを取っておいておければ、演習室、練習室、いろいろな面で使った後、そういう日にち割を上手にとれば、ミニコンサートなんかも出来るんじゃないかなと思います。そしてこれは分からないですが、熱海の子は7月1日ぐらいから7月15日、16日も、お祭りにかけて1日から14日の宵宮まで6時30分、7時ぐらいから9時のびったりまで一生懸命太鼓を叩いて練習していました。今は少子化ということもありまして、7時前から始めるところも町内にあります。時間は9時びったり。それは一生懸命熱海の子が一番熱を持ってやるんじゃないかというくらいに頑張っって祭りの前に練習します。ですから他のところの土地なんかでも、子ども達の太鼓ってというのは結構はやっているんですね。熱海の子たちは、たった10日とか2週間の間にもうそれこそぱぱっとご飯を食べて、本当に一生懸命一心不乱で叩くんですね。あれはとてもいいことだと思います。唯一集中できて、疲れることはあっても15、16日、一生懸命、それをやるわけですね。そして疲れた体で次の日学校行ったりしているんですけど、そういう演習室みたいなところにもし太鼓を少し市の方で用意してくだされば、例えば各町内が、そういうお祭りの前でも年間通じて、月に一回でも各町内の子どもたちが来れる子達が、お母さんと共に来て練習できるのではないかなと思います。ですから演習室というのは、ただコンサートやる方とか、音楽連盟さんの方たちのためにではなくて、一般市民の方にも広く使えるようになるかと思います。ですからある程度の広さをもって作っておけば、先ほど言いましたように、ミニコンサートなんかも少人数の20人くらいしか入れなくても椅子を置いて、簡単にできるんじゃないかなと思います。

(花井委員長)

太鼓ってどれくらい的人数で叩くんですか

(委員)

各町内に山車がありまして、そこに乗る数なんですね。それですけど子どもの数はもっと多いですので、最終的にはお祭りの日は上手な子はメイン通りとか、小さい子たちは町内を回るときにとか、練習の成果を見て、ある程度ABCではないですけど決めるんですね。それで10ぐらい、各町内、小太鼓。大太鼓は大きいですから、ですけど練習するにはやはり大太鼓も必要になってきます。小太鼓だけってわけではなくて、やっぱり必要になります。使わないっていう町内も今ありますね。子どもが完全に少なく、大人だけが目立って引いているような町内もあります。山車も出さないという町内も出てきています。ですから、市の方で話をつけてそういうのをお借りするというか、譲って頂いてそういうところに設置して、年間に通じて子どもたちが例え月に一回でも町内の子どもたちが集まって団結してやるってのも、子どもたちの為には良いことではないかなと思います。

(委員)

水口町で育ちまして、水口の山車も確か小太鼓が5台とか大太鼓1台だったというふうに記憶しています。ただ銀座とか田原本町とかって、商店街のイベントで子どもたちが夏

のお祭りとか関係なく太鼓叩いていたりするので、練習の場所があると、そういった部分の利用者でてくるんじゃないかと思います。

(花井委員長)

ありがとうございます。いろいろとソフト面、先ほど委員がおっしゃったようにソフト面というのがここは重要になってくると思っていて、しいてはそれが図書館・ホールのソフト面に関わってくるかなというふうに感じています。

(委員)

展示ギャラリーについてということですが、ちょっと私が勘違いしていたのかどうかわからないですが、前々回のときの話のときには、展示ギャラリー、展示室ですね。展示室にいろいろな機能を持たせて、多目的ホールをという話だったと思います。ところが今日の話だと展示ギャラリーというところが全然別個になっちゃったような感じで前回の話の時のことは、ちょっとどうなっちゃったのかなと今素直な疑問です。それで先ほど委員がおっしゃった、展示室やなんか1階のところが、誰もが1番エントランス入るところにあるというのは、私も非常にいいと思う。そうすると多目的ホールに展示室というと、ちょっと合わないなってこう思うのね。展示室と、別に多目的ホールを造るときに、先ほどからここにあるいきいきプラザの利用状況っていうのを見ているんですけども、こここの施設の含めてなんだけど、複合的にそのホールだけのところだけじゃなくて、ここの一帯をすべてを1つのものとして考えたときに、では調理室なんかはこちらにあるんですね。また作るというのは無駄だなと。それとあそこの上の多目的ホールもある。そこを使えるなど。何が足りないのかといたら今、委員がおっしゃった防音設備の整ったそういう部屋かなと思います。そうなってくると、じゃあそこのところに防音の効いた部屋を多目的用に使えるようなものを1つ作るというのも1つの案かなって今聞いてて思いました。これはホールが1つあって多目的ホール、どんなホールかっていうと、前もちょっと話が出たと思うんですけども、可動式の簡単にだいたい200人ぐらいの入れるようなホールで可動式のもので、いろんなものに使える。だから可動式のやつが全部入ってしまえば、本当のワンフロアになって、ダンスも出来るような、それから例えば剣道でもそういうものでもできる。いろんなものに使えるような、そんなようなものが防音設備の整ったものが1つあると非常に使い勝手がいいかなと思いました。

(花井委員長)

ありがとうございます。展示ギャラリーはこの辺で。いま少しその中で例えばいま公共的なシステムのこの話はしましたが、ちょっと議題にはありませんが、例えば民間の機能、民間がやっているような機能をなんか入るとおもしろいなとか、それは例えばカフェもあるかもしれないし、他のショップも民間機能の中にあるかもしれないですが、民間機能みたいなのがあると便利かなっていうのは、これはもうジャストアイデアでしかないと思いますが、何かありますか。別にいらんといえぱいらんといっていただけでもかまいませんし。

(委員)

何につけても、よく使うのはコンビニですね。付箋1個買うにしても、ペン1個買うにしても、コーヒー1杯飲むにしてもやっぱり安くて便利でとても助かりますね。

(花井委員長)

それは食事も含めて？

(委員)

食事はないですね。

(花井委員長)

逆に地域の文房具屋さんが入っていればOKみたいな。そういうわけではない？

(委員)

文房具屋さんだけだと、文房具だけになってしまいますが、やっぱりそこでハンカチ忘れちゃったからハンカチとか。

(花井委員長)

病院の、なんかこう言い方ちょっと分かりませんが。

(委員)

だからこれは本当に、今時すぎて逆によくないかなってというのはありますがやっぱり安くて便利。コーヒーも1杯600円のコーヒーも図書館にいた時にちょっと困るなというのも今の時代あるんで、子育て世代としては。そこでやっぱりおいしいコーヒーが100円で飲めたらとても嬉しいですね。

(花井委員長)

それって7のつくところではないですか。他にはないですか。採用不採用じゃなくて、例えばアイデア出しとして聞いときたいなという段階で、ちょっと今事務局とやりとりしている事なんですけども、文房具と付随してコンビニという価値観出ました。他にはないですか。

(委員)

前も申し上げたかと思うんですけど、オープンスペースみたいにしておいて、誰でもふっと入って、そしてそこにワンコインで、ワンコインじゃなくてもいいんですけど、コーヒーとか飲み物が販売してあって常に置いてあって、そこを待ち合わせ場所にするとか。子どもたちが日曜日に待ち合わせして、談笑するとか、そしてお菓子を食べてもかまわないう場所も、熱海市内の中にはあまりないです。マックスバリュに小さな場所があるくらいで。ですからもし場所があれば、オープンスペース的なものがあって、そしてそこで販売機などを置いて頂いて、子どもとか大人の方がじゃあそこで待ち合わせようとか。待ち合わせてまたそこで談笑するとかそういう場所が必要ではないかなって。町場にそういうところがなく、いきなり喫茶店とかそういうところになってしまうので、そういうスペースがちょっとあつたら良いかなと思います。

(花井委員長)

他にはどうでしょうか。なかなか急には難しいですよ。民間機能といってもいろいろあると思います。やり方にはよるとは思うんですけども。先ほどの武蔵野プレイスなんかは入口入ったところにカフェがあって、前がオープンスペースになっています。オープンスペースとカフェが、一緒のスペースのところであって、ここからは有料、ここからは無料なので、みんな持ち込みやっていて、逆に私の事例は図書館が多いですけど、山梨県の県立図書館も入ってすぐが、オープンスペースとカフェになっていたりと、民間が上手



く重なり合っているというところもありますし、メディアって世代のメディア提供にいくと、物販、メガ店舗がやっているような、本も売っているし、そういうデザイン性のポストカードが売っていたりとか、いろんなものが付箋は売っていなかったかもしれないですけど、建物の価値を表す物販のコーナーが一緒に入っていたり、そういうところの見せ方もあるかなと。またここ熱海が観光というテーマがあれば、観光というものをそこで表現するのちょっとあるのかなというふうに、僕のアイデアを言ってもしょうがないですけど、そういうことも一つの議題としてあがってくるかもしれないということもちょっと思いました。時間が後残り少なくて、本来は今日3番の管理・運営というところ、またその他までいかなくってはならなかったですが、これはもしいかなかったらということ、事務局からも許可頂いてまして、これは次回ということをお願いさせて頂きたいと思っております。最終的に今日は3時30分くらいまでということでしたので、残り少ないですけど、皆さんの中で今日はある程度ホールというところの、以前のミーティングより、かなり見えてきたものになったのではないかなと思いますけども。これだけでも言うておきたいな、というのがあれば。どうぞ。

(委員)

委員長の方から今日お話があって、例えば盆栽なり出来ることは何か、みなさんで議論してほしいなという話あったんですけど、本当にそうで、いろいろ道具をそろえて置けばいろいろなことに使えると思います。例えばここに畳をひけば、柔道ができるかもしれないですし、いろいろな事が可能性として考えられると思います。高校生頃かなんかに読んだ本でちくま新書だったか、著者の名前は忘れましたが、『文明の技術史観』という本がありまして、その中の一説に『節約し工夫するところに、我々の本当の文化が育つのではないか』と。やはり現状お金が潤沢にあって、ほしいものが何でも作れるような状況でもないですし、複合施設としていろいろなことを盛り込んでいかなければならない。その中でどこかやはりそれぞれに折れていけないといけない部分が現実的にあるので、やはりその汎用性の高さというのを生み出すためには、ソフト面、委員がおっしゃるようにソフト面を充実させる。そしてそれを管理運営されるのが、市なのか指定管理なのか、分かりませんが、ぜひお願いしたいのが、あれはやってはいけないこれはやってはいけないというような規定をあまりかっちり設けずに、いろいろと自由にみなさん使えるような懐の広い運営体制をとって頂ければ可能性が広がってくるのではないかなと思います。

(委員)

ホールの方に戻ってしましますが、いまみなさん出てきた500人程度のホールという形もすごく素晴らしいなと思いましたが、もう1つは、多目的の小さい方に入るのかもしれませんが、そんなに大きくなって、この間茅野市に行ったとき、もう一つありましたね、固定式の。あの資料を持ってこないの分からないですが、例えばあれくらいの大きいのか、小さいのか分かりませんが、あのくらいのホールだと、今度は演者と観客と一体化した密着型の講演とかお芝居とか音楽が出来ると何か読んだことがあります。例えばそこで音響が良ければ、熱海のあるそこはお客さんと一体になれて、よその地域でミュージシャンの間であそこがいいよってという話になるところもあるって何かで読んだことがあったものですから、大きいばかりではなくて小さいとこの良さというのものもあるんだなってそ

の時初めて分かったんですが、どれか良さを1つ、よく音響が良くて固定式でっていうのが条件だったのかもしれませんが、ミュージシャンたちがあそこはいいよって、お客さんと一体になってぜひあそこでって話が回ってきてみんな行きたがるというようなところもあるって読んだことあるので、いろいろな考えがあるんだなと思いました。先ほど委員がおっしゃったように、もしかしたら小さいホールでできるかもしれませんが、委員のおっしゃった防音のできる場所で、そういうことができるかもしれませんが、考えはいろいろですが思い出したので、ぜひ何かの参考にももしかしたらなるかなと、大きいのと小さいの、もしくは大きいのだけ、小さいのだけとか、いろいろ考えがあるでしょうが、小さくても充実した良い施設ができるんだなと知ったので、ぜひお話ししたいと思いました。

(委員)

私もそこは会場見ましたけれど、その場合は大きなホールがあって、そして小さなホールが300人入れるところがあって、確かに観客と音楽だけを考えれば、300人でいいかもしれないですけども、熱海の場合はホールという大勢集まるっていう場所がないわけですね。ですから300席のただ音楽のコンサートやるためだけにとても聞きやすい方がいい方が呼べそうだっていうすごくいい上質なコンサート会場だけを必要としているわけじゃないですね。音楽だけではなくて、ホール自体の大勢集まる場所がほしいということでまず出ているわけです。それに付随して音楽なり舞台なり、いろんな中学にしても小学校にしても、そういう場所ってということで、300席、200席の良い会場だからということで、進めるというのは私は違うと思います。

(委員)

いろんなできたものによって使い方がいろいろあるんだなということなんで、それをぜひほしいとは言っていないです。

(委員)

大きなものとそういうのと出来ればということはないんですけど、多分熱海の場合は1つではなかろうかなと思ったときに、300席だけというわけにはいかないと思います。それからもう1ついきいきプラザにあります7階の多目的ホール。あそこは展示できるってということで言っておりますが、展示はほとんど使わないし、ほとんどできないです。壁面もしくはパネルの事で展示そのものは。表彰式とかそういう会議場では使いますが展示場ではほとんど使っていないんだと思います。

(花井委員長)

ありがとうございます。最後になりました。どうぞ。

(委員)

ホールの規模について、やっぱり聞いてて運営が決まらないと本当に何にも決まらないというのが感想で、イメージが私も何にも持てなくてというところが正直なところなんです。今日のお話の中で、もう1つ子どもたちがすごく少なくなってしまうと、どんどん大きいものを造ってしまったら育っていく今の子どもたちの負担になるということをお忘れしないでやりたいです。

(花井委員長)

ありがとうございます。先ほど、委員のおっしゃる小さなホールというのは、もしかした

ら多目的スペースとか委員とか委員とかおっしゃったようなところで併用できるのかなと思いますし、委員がおっしゃったように、まずはホールがあってそのスペースをどう有効活用しているか。本当に多目的に合築する今回の建物、熱海フォーラムの中に可能性をすごく秘めているのかなと感じました。そして最後おっしゃったように負担という、いろんな考え方があるので、負担も私たちのお財布を見ながら未来に向かっていかなければいけないかなと思います。時間が残り少なくなっていましたので、ここで議論は終わりたいと思います。今日はこれぐらいにして次回とさせていただきます。

(事務局)

みなさんどうもありがとうございました。次回の第7回目なのですが、最終ということでしたが、さきほど委員長からありましたように管理運営について議論がされていないということもありますので、1回増やしたいと考えております。7回目につきましては決まっておりますので、2月18日水曜日、午後2時を予定しております。会場につきましては、後日通知いたします、最終を3月。日にちは未定なんですけども、3月上旬ごろを最終とさせていただきたいと思っております。本日は長時間にわたり、本当にお疲れ様でございました。